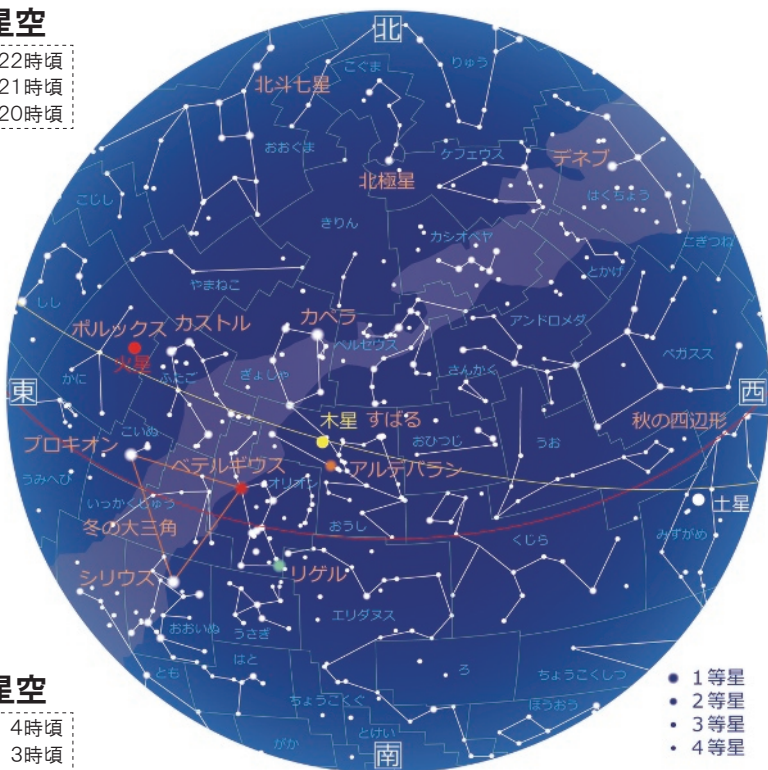


星空ガイド 12月16日～1月15日

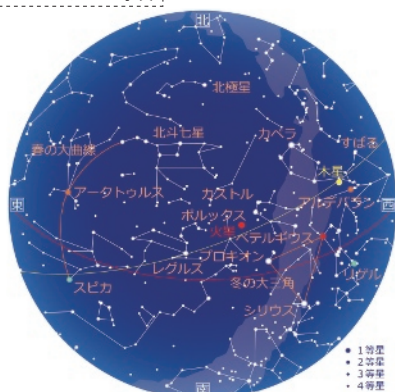
よいの星空

12月16日22時頃
1月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

12月16日 4時頃
1月 1日 3時頃
15日 2時頃



【太陽と月の出入り(大阪)】

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
12	16	月	6:58	16:49	17:26	7:52	14.9
	21	土	7:01	16:51	22:45	11:10	19.9
	26	木	7:03	16:53	2:31	13:10	24.9
1	1	水	7:05	16:58	8:20	18:05	1.2
	6	月	7:05	17:02	11:05	23:46	6.2
	11	土	7:05	17:06	14:10	4:29	11.2
	15	水	7:04	17:10	18:27	8:07	15.2

※惑星は2025年1月1日の位置です。

1月12日、火星が最接近

1月12日に火星が地球に最接近し、観察しやすくなります。最接近、と言っても火星が地球にどんどん引き寄せられていて近づいている…というわけではありません。地球と火星は太陽の周りを公転しながら、近づいたり遠ざかったりしているのです。

その原因は公転周期(太陽の周りを1周するのにかかる時間)の違いにあります。地球の公転周期は365日であるのに対して、火星の公転周期は687日です。火星よりも速く太陽の周りを公転する地球は、約2年2か月に一度火星に追いつきます。このときが火星の最接近となります。その後は地球が火星を追い越していくので、どんどん地球と火星の距離は遠くなっていくのです。

最接近の日に限らず、その前後1か月ほどは1等級程度の明るさになっている火星を肉眼で楽しむことができます。火星の見かけの大きさの変化を観察するには望遠鏡が必要ですが、明るさの変化は肉眼でも十分に感じるすることができます。地球と火星の位置関係によって火星の明るさがどのように変化して見えるのか、ぜひ注目してみてください。



地球と火星の位置関係

野村 美月(科学館学芸員)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
12	18	水	月と火星が接近 海王星が東矩
	21	土	冬至(太陽黄経270°)
	22	日	この頃こぐま座流星群が極大
	23	月	●下弦(7時)
	25	水	水星が西方最大離角 スピカ食 (3時10分潜入～4時14分出現)
	31	火	●新月(7時)

月	日	曜	主な天文現象など
1	3	金	しぶんぎ座流星群極大(23時) 月と金星がならぶ
	4	土	月と土星が接近
	5	日	小寒(太陽黄経285°)
	7	火	●上弦(9時)
	10	金	金星が東方最大離角
	12	日	火星が地球最接近 (23時・9,608万km)
	14	火	○満月(7時) 月と火星が接近

表紙写真データ 撮影日時：2024年10月11日4時48分 撮影場所：京都府舞鶴市
撮影機材：オリンパスPEN E-PL9+M.ZUIKO DIGITAL ED 12mm F2.0(35mm版換算24mm相当)